

くらサポきよみつ

清満地区の暮らしをみんなでサポート

介護や医療などで困っている人を地域ぐるみで助け合っていこうと、津島町清満地区の住民が集まった協議体「くらサポきよみつ（暮らしのサポートきよみつ）」が活動を続けています。地域住民同士の関係が希薄になっている問題を受け、みんなで集まり情報交換をする場を設けて、地域の絆を深めていくための取り組みを行っています。

10月6日(土)には、「孤食」という問題に対して多世代が交流できる場を提供しようと、清満公民館で「第2回きよみつえがお食堂」を開催しました。清満地区の小学生から高齢者までの幅広い世

代が参加し、世代を問わず一緒にゲームを楽しんだり、手作りの料理を食べたりしました。また、清満公民館内にコミュニティカフェをオープンし、誰でも気軽に立ち寄ることができる場所作りを行っています。

メンバーの1人である増本さんは、「みんなで声を掛け合いながら、困っている人に手をさしのべていけるような地域にしていきたい。特に、子どもと関わる機会も少なくなってきているので、えがお食堂のような、多世代で楽しめるような企画も考えていきたい」と話してくれました。



▲きよみつえがお食堂で調理を担当する地域の皆さん



▲多世代交流会・大豆運び競争



有料広告